くもりのちはれ

SAKURA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
くもりのちはれ

【Ｎコード】
Ｎ０２１９Ｓ

【作者名】
ＳＡＫＵＲＡ

【あらすじ】
人みしりな、かおり・クラスの人気者の、祐介。
幼馴染だった二人が、久しぶりの再会
小学校を卒業してからまったく話さなくなった二人の過去とは？
四年ぶりにあった二人にまっているものとは？
ラブストーリーではないけど、近いものを感じさせる物語です。

PART1

わたしはいつのまにか空を見上げていた。
雲ひとつない真っ青な青空が、わたしの目の前に広がっていた。

今日もいつものように授業を受けて、友達と当たり障りのない会話をして、
部活をしていない私は、放課後はすぐに学校を出る。
第一志望だった高校の受験に失敗したわたしは、家からすぐの公立高校へ進学した。
特になりたい職業があるわけではない私は、別にどんな高校でもよかった。
その第一志望の高校というのも、私のではない。中学の時の、ある程度仲が良かった友達に、
「同じ高校にいきたいなあ～」
と言われ、わたしもちょうど行きたい高校を全然言わないから親がイライラしてきていたときだったので、適当に同じ高校にしたのだ。
正直、わたしはそんな、おそろいのキーホルダーを買ったり、休日は一緒に映画を見たりという形だけの友達は、本当の友達ではないと思う。だからと言って、わたしに、本当の友達がいるかと聞かれたら、わたしは、首を横に振るだろう。

学校を出たわたしは、特に行くあてもないままぶらぶらと歩いていた。すると、私がここに生まれて、住み続けた１５年間のうち、１度も見たことがない景気が広がっていた。
一瞬見たら、ただ木が生えているだけに見える。いや、もしかしたら、この場所は、誰にも見えないようになっているのかもしれない。
そう思った私は、一歩また一歩と足を踏み入れて行った。
しばらく進むと、少し開けた場所に出た。中心に大きな木が立って

いるところから、円を描くように丸く木が生えていなかったのである。まるで、誰かが意図的に造ったような空間だった。わたしは、その空間に足を踏み入れた。ずっと歩きっぱなしだったので、木の根元に腰かけた。風が吹いているわけではないが、とたんに涼しく感じた。すると、私が来た方から音がした根で、わたしは振り向いた。

そこにい種は、幼馴染の祐介だった。

「か、かおり？」

「う、うん」

「なんでこんなところにいるの？」

「ゆ、祐介こそ。どうしてこんなところに？」

「俺は、いっつもさぁ、なんか気分が乗らないときは、ここに来るんだあ。」

「気分が乗らないときって、何の？勉強の？」

「まあ、勉強って行ったら、まあね、勉強に近いかな？」

わたしは、中学に入ってから祐介とまったく話していなかった。だからなのか、なかなか会話が続かない。

「そういえばさ、最近全然話してなかったな。」

「うん。そうだね。」

わたしが思っていた事を言われ、ついびっくりしてしまった。

祐介は、これまでまったく話してなかったのをおくびにも出さず、わたしに、ふつうに話しかけてくれた。

わたしと祐介は、家が近所で、二人の家の近くに同じ年の子供がいなかったので、二人でいつも遊んでいた。小学校に入学してからもそれは変わらなかった。

二人で学校から帰ってきて、二人で遊んで、帰ってくるのが遅かったら、二人で怒られ・・・。

何をするにも二人だった。

でも、人になかなか話しかけれない人みしりなわたしと違って、祐

介は、クラスの人気者だった。
三年生、四年生・・・と学年が上がっていくにつれて、二人で過ごす機会がなくなってしまった。
もしかしたら、わたしがその機会を壊していたのかもしれない。
でも、小学校を卒業して、今までの四年間の事を、何もなかったように接してくれる祐介は、
とても優しかった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0219s/

くもりのちはれ

2011年10月8日18時48分発行